



ラスボスの思想(43)



依存症

春日信彦

目次

ラスボスの思想 (43)	1
--------------------	---

ラスボスの思想 (43)

1

依存症

「依存症」と言う精神的および身体的な依存性の病気がある。例えば、依存対象にアルコール、たばこ、ギャンブルなどがありますが、それらに過度に依存すると健康や生活に悪影響を及ぼすため、それらへの依存度を軽減させるための治療が必要になります。ほとんど人は、多種多様なものに依存して生活していますが、過度に依存してしまうと、病的依存症に近い症状が現れます。例えば、政府、企業、宗教、神、名誉、学歴、薬剤、などに過度に依存してしまうと、病的依存症と同程度の症状が現れます。

人は、何らかのものに依存する傾向にあります。また、過度に依存することによって何らかの病的弊害が起きます。依存度を軽減させることができればそれに越したことはありませんが、これを実現させるには、精神的苦痛を伴います。例えば、アルコール、タバコ、ヘロイン、覚せい剤、などの摂取物依存であれば、徐々に摂取量を減らす治療はできますが、強度の精神的および身体的苦痛を伴う禁断症状が現れます。

依存症において、精神的依存性と身体的依存性は混在していますが、意識されにくい精神的依存性について考えてみましょう。例えば、ある人が、神に対し過度の依存をし

ていたとしましょう。「神への依存度が高すぎると現実が見えなくなるから危険です。だから、神への依存度を軽減してください」と彼に言ったとしましょう。彼は、どのように思うでしょうか?おそらく、言われている意味が分からないと思われます。神を信じている人にとって、信じる度合いを軽減させることはできません。人は、一旦信じ込んでしまうとより深く信じ続けるものなのです。

次に、母性愛について考察してみます。母性愛は、母親の子供への強い愛ですが、この愛も依存的性質を持っています。「子供は命です」との母親の言葉は、子供の存在が母親にとってかけがえのないものであることを意味しています。言い換えるならば、母親は子供の存在に立脚していることを意味しています。このことは、まさに、母親が子供に依存して生きていることを意味しているのです。

2

神依存と同様に子供依存度について考えてみましょう。「子供への過度の愛は子供への干渉が強くなるので、もう少し愛を弱めて、距離を置いてください」と母親に言ったとしましょう。母親は、どのように思うでしょうか?おそらく、強い母性愛が子供への干渉を強めていることは理解できるでしょう。また、多少は反省をする場合もあるでしょう。でも、理性で納得したからと言って、母性愛を弱めることができるでしょうか。現実的に、精神的依存度は理性でたやすく操作できるものではないのです。

ほとんどの人は、何らかに依存して生活しています。依存生活の根底にあるものは不安心理です。誰も何らかの不安に駆られるとその不安を解消しようと図ります。そして、不安を解消するために何かに依存して安心感を得ようと試みるのです。多くの場合、人間関係が不安を引き起こします。人は生活する上での不安を解消するために、周りの人と同じことを行ったり、言ったりします。例えば、ウイルスが日本中に蔓延していること知らされた国民は、政府が推奨するマスク着用に従いました。さらには、多くの人は周りの目を気にして、マスクを外せなくなりました。このマスク着用は約3年間も続きました。「マスク依存症」と言っても過言ではありません。

ほとんどの場合、メディアによる情報や人間関係によって不安感が引き起こされます。その不安を解消するために、人は何かに依存して安心感を得ようとするのです。依存は、安心感を得るための解決策の一つです。だから、周りの人によって不安が引き起こされた場合、安易に彼らに同調することによって安心感を得るのではなく、自ら解決策を考える必要があるのです。

例えば、日本中にウイルスが蔓延していると報道された時、政府の感染予防対策として、医療従事者、老人へと薬剤投与が開始されました。それに伴い、企業も薬剤投与を推奨しました。感染に不安を抱く人たちは急増加し、それに伴い薬剤投与人数も急増加していきました。薬剤投与の必要性を感じていない人たちも、周りの人の目を気にして、薬剤投与をするようになっていきました。このような同調による安易な解決策は、必ずしもいい結果をもたらすとは限りません。そこで、薬剤投与以外の解決策はないか？ 今一度、冷静になって考えてみなければなりません。

3

安心感を得るために何らかに依存してしまうとその依存からの脱却はとても困難です。薬剤に依存して安心感を得ている人に、薬剤を止めるように勧めてもそう簡単に止められるものではありません。大切なことは、自分の考え方と違った他人の意見に耳を傾けることです。そして、今やっている解決策以外にも解決策はあるのではないかと考えてみることです。自分で解決策を考えることは、精神的苦痛、忍耐、勇気、学習、時間が必要になります。たとえ、すぐに別の解決策が見つからなくとも、その努力は、精神的成長を促進させることでしょう。

政府を信じる私たちは、約三年間、政府の薬剤投与による感染予防解決策に従ってきました。政府の解決策に従うことは、国家の治安につながります。しかしながら、政府の解決策によって多くの国民が不幸になる現象が現れたならば、今一度、冷静になって政府の解決策を考えてみなければなりません。政府の解決策が、国民を不幸にすると判断したならば、勇気をもって政府の過ちを指摘しなければなりません。さらに、誤った

解決策を変更させるために団体行動を取らなければなりません。もし、そうしなければ、国民はますます不幸になっていくことでしょう。勇気を出して、行動しましょう。共に頑張ってください。

一休川柳

*昭和でも 令和であっても たいやきくん

*里沙の色 悲しい色も 爽やかに

*縄文人 奴隷の幸せ もう来ない

*岸田には 赤シャツ着せて 生卵

*手遅れか あなたの隣に 人民兵

*日本国 国名あっても 土地はなし

*秀才も 学歴目指して 認知症

*おじいちゃん 医者の笑顔で 頓死する

*縄文人 敵を愛して エサになる

*秀才は お金信じて 神捨てる

ラスボスの思想(43)

著 春日信彦

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
